

「緑の回廊の設定方針」に設定する「評価項目」等の標準例の『調査すべき具体種』に係る大隅半島緑の回廊及び綾川上流緑の回廊における該当の有無等の状況について（案）

「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊		
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				
大分類	中分類		小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】	
1 猛禽類・哺乳類等の保護に関すること							
猛禽類(留鳥型)の保護							
	イヌワシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>イヌワシは、崖地のある山地帯を繁殖地としていることが多く、山間部の開発により影響を受ける。</li> <li>事業の影響を低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 生息状況の情報収集</li> <li>② 行動圏</li> <li>③ 自然環境</li> <li>④ 営巣場所</li> <li>⑤ 繁殖状況</li> <li>⑥ 社会環境の情報</li> </ul>	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	<ul style="list-style-type: none"> <li>イヌワシ</li> </ul>	非該当	非該当
	クマタカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>クマタカは、山地の高木林に生息し、その巣は急斜面の樹木に作られることが多い。</li> <li>事業の影響を低減するためには「営巣中心域」「高利用域」「採食地」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 行動圏</li> <li>② 自然環境</li> <li>③ 営巣場所</li> <li>④ 繁殖状況</li> <li>⑤ 社会環境の情報</li> </ul>	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	<ul style="list-style-type: none"> <li>クマタカ</li> </ul>	クマタカ	クマタカ
	オオタカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオタカは、平地から丘陵地の森林を繁殖地としていることが多い。事業の影響を回避・低減するためには、「営巣中心域」や重要な採食地を含む「高利用域」を特定し、こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 営巣場所</li> <li>② 繁殖状況</li> <li>③ 行動圏の内部構造</li> <li>④ 自然環境</li> <li>⑤ 社会環境の情報</li> </ul>	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオタカ</li> </ul>	オオタカ	オオタカ
	オジロワシ オオワシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>オジロワシは日本国内（北海道等）で繁殖する個体と冬期にロシアで越冬し、北海道等で越冬する個体がいる。海岸や湖沼周辺、河川流域の大きな木に営巣している。</li> <li>オオワシは冬期に、北海道、北方四島、本州北部・中部等で越冬する。越冬地では海岸や湖沼近くの針広混交林をねぐらにしている。</li> <li>こうした場所を中心に保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 営巣場所</li> <li>② 繁殖状況</li> <li>③ 行動圏の内部構造</li> <li>④ 自然環境</li> <li>⑤ 社会環境の情報</li> </ul>	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期	<ul style="list-style-type: none"> <li>オジロワシ</li> <li>オオワシ</li> </ul>	非該当	非該当

「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊	
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと			
大分類	中分類	小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】	
猛禽類(渡りをするもの)の保護						
	猛禽類（渡りをするもの）	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設設置によるルートの障害や迂回することによるエネルギー・ロスの問題および死亡率の増加が考えられるため、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種ごとの渡りルートの情報</li> <li>種ごとの渡りの中継地における、餌場と休息地等の情報</li> </ul>	少なくとも繁殖が成功した1シーズンを含む2営巣期  (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として北海道地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>オオワシ、オジロワシ、トビ等</li> </ul> 【例示として四国地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>ハチクマ、サシバ等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハチクマ、サシバ、ハイタカ、チゴハヤブサ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハチクマ、サシバ、ハイタカ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
その他希少な渡り鳥の保護						
	水鳥類	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖、越冬、中継のために日本へ渡来することから、その餌場、休息地等について、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>餌場と休息地の移動機能を維持するため、衝突リスクを解析、予測・評価し、必要に応じて宇影響を回避・低減する保全措置が取られていることが確認できる情報</li> </ul>	渡来する冬季を最低2シーズン（対象種による）  (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として北海道地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>マガン、ヒンクイ等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	非該当	非該当
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>繁殖、越冬、中継のために日本へ渡来することから、その渡りルート等について適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>渡りルート上で計画される場合、衝突リスクを予測・評価し、その結果に応じてリスクを回避・低減させる保全措置が実施されていることが確認できる情報</li> </ul>	渡りの中心となる春季・秋季の年2回を最低2シーズン（地域による）  (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として四国地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>ヤイロチョウ、ミゾゴイ、コルリ、コマドリ、コノハズク等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブッポソウ、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、アカショウビン、オオルリ、アカヒゲ、キビタキ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブッポソウ、ヤイロチョウ、サンショウクイ、サンコウチョウ、アカショウビン、オオルリ、ツツドリ、キビタキ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>

「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊		
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				
大分類	中分類		小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】	
	希少な哺乳類の保護						
	哺乳類（コウモリ以外）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域により「絶滅のおそれのある地域個体群」とされている種もあり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>重要な種の分布、生息の状況及び生息環境の状況に関する情報</li> </ul>	春季、夏季、秋季及び冬季の年4回を最低2シーズン	(例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として四国地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>ツキノワグマ、ヒメヒズメ、トガリネズミ等</li> </ul> 【例示として近畿中国地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>ニホンカモシカ、ニホンリス、樹上性哺乳類(ムササビ、モモンガ、ヤマネ等)等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次の樹上性哺乳類 ヤマネ、ムササビ、モモンガ</li> <li>ヒメネズミ、ホンシュウカヤネズミ、ホンダアカネズミ、ヒメネズミ、コウベモグラ、ヒメズ、カワネズミ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニホンカモシカ</li> <li>次の樹上性哺乳類 ヤマネ、ムササビ、モモンガ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
	洞窟性コウモリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>洞窟内の天井のくぼみ等をねぐらとして利用する。</li> <li>飛翔場所（林冠上空、林冠付近、林内等）が種により異なり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されたコウモリ類に関して、ねぐら、繁殖場所、採餌場所、移動経路の情報</li> <li>移動経路上やねぐら・繁殖場所付近で計画せざるを得ない場合、バットストライク発生リスクを予測・評価し、その結果に応じリスクを回避・低減させる保全措置が確認できる情報</li> </ul>	コウモリ類の活動期である春季～秋季を含む期間で継続的に調査	(例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として関東地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>キクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリ等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モモジロコウモリ、キクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キクガシラコウモリ、ユビナガコウモリ、モモジロコウモリ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
	森林性コウモリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>枯死木や生立木の樹皮下や幹の割れ目、樹洞などをねぐらとして利用する。</li> <li>飛翔場所（林冠上空、林冠付近、林内等）が種により異なり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されたコウモリ類に関して、ねぐら、繁殖場所、採餌場所、移動経路の情報</li> <li>移動経路上やねぐら・繁殖場所付近で計画せざるを得ない場合、バットストライク発生リスクを予測・評価し、その結果に応じリスクを回避・低減させる保全措置が確認できる情報</li> </ul>	コウモリ類の活動期である春季～秋季を含む期間で継続的に調査	(例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として中部地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>ヤマコウモリ、コヤマコウモリ、ヒナコウモリ、クビコウモリ、モリアブラコウモリ、チチブコウモリ等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コテングコウモリ、テングコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、クロホオヒゲコウモリ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コテングコウモリ、テングコウモリ、ヤマコウモリ、ヒナコウモリ、クロホオヒゲコウモリ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>

「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊	
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと			
大分類	中分類	小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】	
2 マイクロハビタットの保全に関すること						
希少な爬虫類・両生類の保護						
	サンショウウオ類	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼体の生息環境は池沼や水溜り等、成体（繁殖期以外）は林床に生息している。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されたサンショウウオ類に関して繁殖地となる池沼や水溜り、溪流河川等に関する情報。生息地となる林床に関する情報</li> </ul>	繁殖期を含む春季、夏季、秋季、冬季の2シーズン  (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として四国地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>イシヅチサンショウウオ、コガタブチサンショウウオ、シコクハコネサンショウウオ等</li> </ul> 【例示として東北地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>トウホクサンショウウオ、クロサンショウウオ等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオスミサンショウウオ、ブチサンショウウオ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブチサンショウウオ、ベッコウサンショウウオ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
	イモリ類	<ul style="list-style-type: none"> <li>池、湿地等の止水域に多いが、林道の側溝や、大きな河川脇の水溜りなどでも見かけられることがある。</li> <li>基本的に、流れのある河川には生息しない。繁殖期は春から初夏にかけて、卵を中の水草や枯葉に産卵する。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されたイモリ類に関して一般的な繁殖地となる池沼や水溜り、溪流河川等に関する情報</li> </ul>	繁殖期を含む春季、夏季、秋季、冬季の2シーズン  (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として関東地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>アカハライモリ等</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アカハライモリ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アカハライモリ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
	ヘビ類	<ul style="list-style-type: none"> <li>種にもよるが水辺、草地、森林など比較的広い範囲に生息している。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されたヘビ類に関して特に広葉樹林や水辺における生息状況に関する情報</li> </ul>	春季、夏季、秋季、冬季の年4回を最低2シーズン  (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	(非該当)  <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	(非該当)  <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
	カエル類	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼体の生息環境は池沼や水溜り等、成体は林床や樹木に生息している。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確認されたカエル類に関して一般的な繁殖地となる池沼や水溜り、溪流河川等に関する情報</li> </ul>	繁殖期を含む春季、夏季、秋季、冬季の2シーズン  (例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニホンヒキガエル、トノサマガエル</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニホンヒキガエル、トノサマガエル</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>

「評価項目」の標準例					大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊		
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）			当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				
大分類	中分類	小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】			
		希少な水生生物の保護						
		水生生物（魚類、水生昆虫類、底生生物、陸産貝類等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業地周辺の溪流及び湿地等に生息している可能性があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地熱発電施設から排出されるガス、冷却水が付近の生物相に大きな影響を与えるおそれがあることから、周囲の水環境に与える影響に関する情報</li> </ul>	春季、夏季、秋季及び冬季の年4回を最低2シーズン	(例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キュウシュウゴマガイ、アラナミギセル、ナミハダギセル、タブキギセル、カドヒメベッコウ、ヒゼンオトメマイマイ</li> <li>ミカケサワガニ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サダマイマイ、ナンピギゼル、カンダマイマイ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
		希少な昆虫類の保護						
		チョウ類	<ul style="list-style-type: none"> <li>成虫は、年1～3回発生し、幼虫期には種ごとに特定の植物を食草とすることが多い。</li> <li>生息地は、森林、採草地、農地、河川堤防、山地草原等と種により様々である。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少チョウ類の生息・繁殖環境となっている草地（地域ごとにその群落構成種は異なる）の情報</li> </ul>	早春季（4月中旬）、春季（5月下旬）、夏季、秋季の年4回を最低2シーズン	(例) <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として北海道地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>希少ヒョウモンチョウ類、ギンイチモンジセセリ、ヒメチャマダラセセリ等</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クリシマドリシジミ、ベニモンコノハ、</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クロシジミ、シルビアシジミ、ルーミスシジミ、ツマグロキチョウ、オオムラサキ、ギンイチモンジセセリ、ミスジチョウ、ミスジチョウ、ヒサマツドリシジミ、ウラギンシジミ、ウラギンヒョウモン、オオウラギンスジヒョウモン、オナガアゲハ、カラスシジミ、クリシマドリシジミ、コムラサキ、シータテハ、ジャノメチョウ、スギタニルリシジミ、ミヤマセセリ、ミヤマチャバネセセリ</li> <li>ヤクシマヒメキシタバ、ルリモンホソバ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>

「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊		
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				
大分類	中分類	小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】		
		アリ類 <ul style="list-style-type: none"> <li>森林に隣接した草原を好む。晩春～初秋の暖かい時期に活動する。</li> <li>種により営巣場所は多岐にわたり、営巣場所の選好性が比較的明確である。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	確認された希少アリ類に関して、 <ul style="list-style-type: none"> <li>生息環境の情報</li> <li>食性に関する情報</li> <li>営巣に関する情報</li> </ul>	活動期を含む早春季（4月中旬）、春季（5月下旬）、夏季、秋季の年4回を最低2シーズン	（例） <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	（非該当） <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	（非該当） <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
		コウチュウ類 <ul style="list-style-type: none"> <li>変態は卵 - 幼虫 - 蛹 - 成虫という完全変態を行う。幼虫には翅はなく、成虫とは食物が違うものも多い。</li> <li>種により食性も多様で、虫食、腐肉食、糞食、葉食、樹木食、樹液食、菌食、蜜食などがある。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	確認された希少コウチュウ類に関して、 <ul style="list-style-type: none"> <li>幼虫の生息環境の情報</li> <li>食性に関する情報</li> <li>成虫の生息環境の情報</li> </ul>	成虫が出現する時期を含む早春季（4月中旬）、春季（5月下旬）、夏季、秋季の年4回を最低2シーズン	（例） <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として九州地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>オオチャイロハナムグリ等</li> </ul> その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種	（非該当） <ul style="list-style-type: none"> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオテントウ、タマムシ、フタホシアトキリゴミムシ、コアオハナムグリ、ゴマダラカミキリ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>
		トンボ類 <ul style="list-style-type: none"> <li>産卵は挺水植物や浮葉植物あるいは沈水植物の水面直下の生体組織内に行われ、幼虫は水中に生息し、小型の水生昆虫等を捕食する。</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	確認された希少トンボ類に関して、幼虫の一般的な繁殖地となる池沼や水溜り、溪流河川等に関する情報	早春季（4月中旬）、春季（5月下旬）、夏季、秋季の年4回を最低2シーズン	（例） <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少とされている種</li> </ul> 【例示として四国地方の場合】 <ul style="list-style-type: none"> <li>ムカシトンボ等</li> </ul> その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種	<ul style="list-style-type: none"> <li>ムカシヤンマ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オナガサナエ、オニヤンマ、コシアキトンボ、ナツアカネ</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少とされている種</li> </ul>

「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊	
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと			
大分類	中分類	小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】	
3 希少ないしは重要な植物群落の保護に関すること						
植物種の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少ないしは重要な植物種</li> <li>希少種の生息（生息）環境を構成している植物種</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種子植物その他主な植物に関する植物相の状況に関する情報</li> <li>重要な種の分布、生育の状況及び生育環境の状況に関する情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少なくとも生育状況及び生育環境が把握できる1年間。</li> <li>種の同定には開花・結実期が適するため、文献等で生育が想定された対象種によっては、開花期が短いなど季節性が強い場合があることも留意し、調査時期を設定することが必要。</li> </ul>	<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>その地域において希少ないしは重要とされている種</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少ないしは重要とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘツカコナスビ、ナンゴクカモメズル、クリシマシヤクジョウ、ヒュウガヒロハノテンナンショウ、ダルマエビネ、クリシマエビネ、クロムヨウラン、ムカゴサイシン、ガンゼキラン、キンチャクアオイ、ナギラン、ムヨウランなどの別紙○に記載する種</li> <li>*注：今後、国・県のレッドリスト種を表に取りまとめます。</li> <li>ナギラン、マツバラン等の希少種が着生し、これらの種の生育・繁殖可能なアカガシやウラジロガシ等の多くの大径木が立地する森林</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少ないしは重要とされている種</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キバナノセッコク、サツマシダ、タキミシダ、ナゴラン、ウチヨウラン、エビネ、ベニシユスラン、ナギラン、マメツタラン、ムギラン、ヒモラン、ヒュウガアジサイ、ホコガダシダ、ヤクシマラン、ヒュウガナンテンショウなどの別紙○に記載する種</li> <li>*注：今後、国・県のレッドリスト種を表に取りまとめます。</li> <li>シノブ、セッコク、マメズタラン等の希少種が着生し、これらの種の生育・繁殖可能なアカガシやウラジロガシ等の多くの大径木が立地する森林</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少ないしは重要とされている種</li> </ul>

「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊	
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと			
大分類	中分類	小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種【※各回廊ごとに記載】	
	植物群落の保護 ※特定の植物群落をマイクロハビタットとして利用する希少な動物種の保護については、「2 マイクロハビタットの保全に関すること」の評価項目により確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>希少ないしは重要な植物群落</li> <li>希少種の生息（生育）環境を構成している植物群落</li> <li>地域を特徴づける希少野生生物である場合があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>種子植物その他主な植物に関する植生の状況に関する情報</li> <li>重要な群落の分布、生育の状況及び生育環境の状況に関する情報</li> <li>自然環境保全基礎調査の植生図で、植生自然度8以上とされる森林の情報</li> <li>自然環境保全基礎調査における特定植物群落に関する情報</li> <li>旧保護林に関する地域の情報</li> <li>植生と希少動物種の関係性に関する情報（樹洞を利用する野鳥や昆虫等の種に関する情報など）</li> <li>植生と希少植物種の関係性に関する情報（自然度の高い森林に依存する着生植物の情報など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少なくとも生育状況及び生育環境が把握できる1年間。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(例)</li> <li>その地域において希少ないしは重要とされている群落</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少ないしは重要とされている群落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スダジイ・ミズバイ群落、イスノキ・ウラジロガシ群落、モミーシキミ群落、アカガシ群落</li> <li>その他現地調査により新たに発見されたその地域において希少ないしは重要とされている群落</li> </ul>
	特別な個体の保護	<ul style="list-style-type: none"> <li>尾根部等の風衝地には、その場所の植生全体を強い風の影響から守っている特別な植物の個体が存在する。</li> <li>それを伐開してしまうと、そこから連鎖的に枯れ上がりや倒木が進み、森林全体が消失してしまうため、確実に保護する必要がある。</li> <li>このように、種そのものは希少でなくても、場所により特別な個体が存在する場合は、適切な保全措置を検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施区域が風衝地であるか否かの情報</li> <li>当該風衝地に生育する植生を強い風の影響から守っている特別な植物の個体の有無</li> <li>その他、特別な個体が存在するか否かの情報</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少なくとも生育状況及び生育環境が把握できる1年間。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(例)</li> <li>当該風衝地に生育する植生を強い風の影響から守っている特別な植物の個体</li> <li>その他その場所において特別な役割を果たす個体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>風衝地のオオスミツバツツジ、タカマホトギス及びツクシアケボノツツジの生育地であって強い風の影響から守っている周囲植物</li> <li>その他その場所において特別な役割を果たす個体</li> </ul>
4	緑の回廊の連続性の維持に関すること					



「評価項目」の標準例				大隅半島緑の回廊	綾川上流緑の回廊		
着目する生物グループ（生態面からのタイプ分類）		当該生物種の生息地等に共通する特徴（調査・確認する背景）	環境影響評価手続等において確認すべきこと				
大分類	中分類	小分類	調査すべき情報	調査期間	調査すべき具体種		
					【※各回廊ごとに記載】		
	生態系の保護	<p>（上位性注目種）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>環境のつながりや比較的広い環境を代表し、栄養段階の上位に位置する、大型でかつ個体数の少ない肉食動物または草食でも天敵が存在しないと考えられる種</li> <li>小規模な環境における栄養段階の上位に位置する種</li> </ul> <p>これらの生息場所が破壊されるとその存在に重大な影響を及ぼす可能性があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</p> <p>（典型性注目種）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生物群集の多様性、生態遷移を特徴づける種・群集又は生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を果たすような種・群集</li> </ul> <p>（植物では現残量や専有面積の大きい種、動物では個体数が多い種等）で、これらの生息場所が破壊されるとその存在に重大な影響を及ぼす可能性があり、適切な保全措置を検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活史、生息・生育環境条件等に関する特性</li> <li>生息・生育している位置、個体数及び繁殖等の現況</li> <li>生息・生育していると推定される行動圏又は生育分布地</li> <li>行動圏又は生育分布地内における他の動植物との関係</li> <li>推定される餌等の種類とその分布面積及びそれらの関係</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>動物：春季、夏季、秋季及び冬季の年4回（最低2シーズン）</li> <li>植物：春季、夏季及び秋季の年3回（最低2シーズン）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上位性注目種 ※各回廊ごとに、対象地域における生態系内での様々な食物連鎖に留意し、環境のスケールに応じて、事業ごとに対象となる生態系にふさわしい種を選定すること</li> <li>典型性注目種 ※各回廊ごとに、環境の階層的構造にも着目し、事業ごとに対象となる生態系にふさわしい種・群集を選定すること</li> </ul>	<p>【上位性注目種】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の猛禽類 ツミ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ノスリ、トビ</li> <li>次の夜行性猛禽類 コノハズク、フクロウ、アオバズク</li> <li>次の夜行性鳥類 ヨタカ、ヤマシギ</li> <li>次の哺乳類 ホンドキツネ、ホンドイタチ、ホンドテン</li> </ul> <p>【典型性注目種】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の地上性の営巣・採餌鳥類 コシジロヤマドリ、マミジロ、クロジ</li> </ul>	<p>【上位性注目種】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の猛禽類 ツミ、ミサゴ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、ノスリ、トビ</li> <li>次の夜行性猛禽類 コノハズク、オオコノハズク、フクロウ、アオバズク</li> <li>次の夜行性鳥類 ヨタカ、ヤマシギ</li> <li>次の哺乳類 ホンドキツネ、ホンドイタチ、ホンドテン</li> </ul> <p>【典型性注目種】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>次の地上性の営巣・採餌鳥類 コシジロヤマドリ、マミジロ、クロジ</li> </ul>